

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業名	青少年社会環境浄化事業			会計	款	項目	大専	小専
政策	03	3節 学び、受け継がれ、進展する流山（教育・文化の充実向上）		主管課	生涯学習課			
施策	3-3	次代を担う青少年を育てる地域環境づくり		主管課長	中西 直人			

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	市内在住・在学20歳未満の青少年及び保護者、地域住民	意図	青少年を取り巻く有害な社会環境の浄化を行い、青少年の健全育成を図る。
事業内容	青少年の健全育成に関する関係団体、啓発講演、青少年の市内店舗利用状況を把握するための聞き取り調査、納涼祭等における見守りパトロールなどの実施			
事業開始から現在までの状況変化	昭和55年度から流山市青少年社会環境浄化推進委員会及び同実行委員会を設置。昭和58年度に流山市青少年社会環境推進月間（2月）を定め（平成24年度から12月に変更）、「つどい」を実施している。平成2年度から「つどい」に向けて、各機関・団体の代表者で組織される地区会議を開催。平成19年度に集会活動として「全体のつどい」を実施後、平成28年度まで「地区のつどい」に変えて実施。平成29年度から「全体のつどい」として実施している。			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
	①	集会活動[全体のつどい]への参加者数	621	583	593	人	→→
②	店舗利用状況調査	458	371	342	人	→→	PTA206人、各種団体122人、教職員14人
③	協力店舗数	179	183	185	店舗	→→	実行活動の協力店舗数
④							
⑤							
⑥							
指標で表すことができない定性的な成果		目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況）					
事務事業のコスト		平成28年度	平成29年度	平成30年度	社会環境浄化事業の一環である実行活動「店舗調査、青少年利用状況調査」などの会議や活動に対し、PTAや各種団体等の積極的な参加を得ることができた。また、「全体のつどい」を開催したことで、結果報告や情報交換、講演会を通して、青少年や地域住民の参加も多く見られ、青少年への社会環境浄化推進事業への意識の高まりが期待できた。		
事務事業の総コスト(a=b+c)		6,157,127	6,090,682	6,529,588			
事業費(b)(円)		97,527	153,482	191,988			
うち一般財源		97,527	153,482	191,988			
職員給与費(c)(円)		6,059,600	5,937,200	6,337,600			
人役・職員(人)		0.80	0.80	0.80			
人役・再任用(人)				0.20			
人役・臨職(人)		0.40	0.40	0.40			
人役・嘱託(人)							
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）							
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）							

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	B 市が担うとともに、市民協働を進めるべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	II 継続（事業を現状どおり継続すべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

①H30当初の改善計画(Plan)	社会環境浄化事業の実行活動の内容ややり方について、再検討を行い効率性のよい活動にする。また、委員への情報交換や共有化を図り、参加者の負担を軽減する。	③取組における課題(Check)	登校拒否をはじめとして、相談内容も多様化、複雑化、あるいは深刻化する中で、総合的な理解を深めるため、関係機関との連携強化の充実が必要。
②H30に実施した取組(Do)	平成27年度より「全体のつどい」を文化会館で実施し、実行活動等の報告や講演会を開催し、充実を図った。また、夏の納涼祭パトロール活動は、市内38か所で行っている。	④課題に対する今後(H31~)の改善計画(Action)	実行活動は地域密着型の活動として、「まとめの会」や「全体のつどい」を充実させ、青少年の健全育成への啓発強化に努める。